

令和6年度 第13回白山市ミライ会議【概要】

日 時 令和6年8月27日(火)15:30～16:30

場 所 市民交流センター 3階企画展示室

テーマ 【教育】ジオパーク学習

出席者 10人〔ジオパーク学習支援員、東大寺領横江荘荘園まつり実行委員会、美川自然人クラブほか〕



◆教員OBからなるジオパーク学習支援員 人材確保に課題

(出席者①)

ジオパーク学習支援員は、2012年に日本ジオパークに認定されて以来、活動を続けており、現在は約10人で活動しています。主に、学校の依頼に応じて、ジオパーク遠足など学校の校外活動をサポートしています。発足当初は退職した理科教員が集まり、以降は人づてに声をかけ集めていました。しかし、現在は定年制など制度の変更により、退職後の職員に声をかけることが難しくなり、ここ数年は新規参加者がいないため、組織の継続が危ぶまれています。そのため、行政にも協力をお願いしたいと思います。

◆興味関心を持つメンバーが集まったクラブ 他地域のジオパークで人の活動の重要性を再認識

(出席者②)

知人に誘われたことをきっかけに、興味を持って美川自然人クラブの活動を始めました。10年以上の活動の中で、山陰海岸ジオパークを見学した時の経験から、自然の価値だけでなく、そこで活動する人々や文化の重要性を再認識しました。自分自身は好きで活動していますが、支援員は選ばれてその役割を果たしているということであり、どちらの在り方も必要だと思っています。

◆1200年の節目に地域の歴史を学ぶ活動を 古代米を使ってジオをPR

(出席者③)

東大寺領横江荘荘園まつり実行委員会の立ち上げは、818年に横江荘が東大寺に寄進されてから、2018年に1200年の節目を迎えたことがきっかけです。地域で何かしようと、子どもたちと共に古代米を栽培し、東大寺へ奉納する催しを行いました。地元の北陽小学校と東明

小学校の児童には地域の歴史を学ぶ機会となっていて、コロナ禍で活動できない時期を経て、現在も活動を継続しています。

白山手取川ジオパークが「水の恩恵」に関わることであることから、実行委員会として白山手取川ジオパーク連携協定団体として連携することにしました。しかし、松任地域は、他の地域と比べてジオパークのPR材料となる要素が少なく、人口が多い地域にも関わらず、周知が進んでいません。そのため、古代米を使ったサブレなどの商品開発を進め、身近な食を通じてジオのPRに取り組んでいます。

ただ、古代米の栽培は手作業で手間がかかるため、地域住民の協力が不可欠で、人材確保が課題となっています。また、松任地域としてジオパークの発信するための手段についても考えていきたいと思っています。

◆ジオパーク学習にも地域差 教材開発等の時間確保を

(出席者④)

山ろく地域の小学校ではジオパーク学習が進んでいる一方、ジオパークを身近に感じられない松任地域の小学校においては、ジオパーク学習の発表を行うのは難しく、大変な労力が必要です。全市的なジオパーク学習や発表を行うためには、教材開発の期間確保や発表順の検討を行っていただきたいと思います。また、ジオパーク学習支援員の協力により何とか進められている部分も大きく、ジオパーク遠足など体験学習の機会を増やしていただければと思います。

(市長)

ジオパーク学習支援として、教師を対象に自然学習に関する研修などを増やしています。また、公認の観光ガイドが今年8人増え、順調に増加傾向であり、今後、学校とも連携し活動を増やしてってもらいたいと考えています。教員の定年が65歳に引き上げられ、学習支援員の活動へ参加を呼びかけることが難しいかもしれませんが、子どもの感性を発達させるためにも、自然体験や子どもと関わる経験が豊富な教員の方には協力いただくと嬉しく思います。

美川自然人クラブの方々については、皆さんの自然を愛する姿、活動を、ぜひ子どもたちに見せてあげてほしいと感じました。東大寺領横江荘荘園まつり実行委員会の活動も様々な工夫をしていただいていると思います。他の地域においても、田植え体験や有機農法の知識を学ぶ取り組みが増えており、コミュニティスクールの設置やコミュニティセンターの支援によってその機会が広がっています。

松任地域でジオパークというと用水が中心となり、山ろくと比べると調べる幅はせまくなりますが、例えば先日の地震をきっかけに白山市の地盤や大地の成り立ちを学べますし、湧水などからトミヨの生育などに繋がるなど、様々な観点から学習することができると思います。先生方の準備に係る時間などについては教育委員会と相談していきたいと思っています。

◆水に関するイベントで魅力のPRを

(出席者⑤)

市には、水に関するイベントや催しを積極的に実施していただきたいと思います。地域独自の活動には限界があり、市のPR活動を強化し、県外の人に魅力をPRしていただきたいと思

います。例えば、伏流水の飲み比べイベントの開催、旅行者向けの看板や飲料設備の設置を工夫することで、美川の特産品や発酵食品をPRできます。そのほか、石川ルーツ交流館を活用したトミヨに関する映像公開イベントや、絶滅危惧種の水生生物に関する写生大会・写真大会なども考えられます。

また、熊田川の樋門の設置のために、湊地区の公園が壊されているので、子どもたちが遊べる場所を作ってほしいです。さらに、野鳥観察のための施設「鳥見小屋」周辺の木を、国交省が伐採してしまいましたが、生物保護の観点から関係機関との相談のうえで行ってほしかったと思います。

(市長)

手取川中州にある木の伐採については、地域側からの要望に応じたものだと言っています。

(出席者⑤)

洪水対策のための堤防補強や土砂の移動についても課題があり、コアシサシの産卵に影響していると新聞でも取り上げられていましたが、砂利をとって洪水で流れない場所を作ればコアシサシも営巣できます。できることから取り組んでいただきたいと思います。

◆体験型の学び施設が必要 ジオパーク活動は多くの人たちが積極的に関わり、ワクワク楽しい学びの場でありたい

(出席者⑥)

他の世界ジオパーク認定地域には、ジオパークの名前を冠した施設などがあり、国内外から来た人がジオパークを学ぶ拠点となっています。特に、バーチャル映像や触れることのできる岩石標本、砂の実験装置といった体験型の学習施設が充実しています。本市でも、ぜひそういった学びの施設を作り、市内外、国内外から人が学びに来られるようにしてほしい。

自分は学習支援員として、教員の経験を活かし、子どもたちにうまく計画的に伝えようと努力していますし、今も活動を通じて、学ぶことは多々あります。先ほど、公認観光ガイドの協力が必要だと市長はおっしゃいましたが、自分もガイドの資格を取得した経験から言えば、学習支援員と公認観光ガイドは、できることや在り方が違うと感じます。自分は立場によって内容や話し方を使い分けていますし、同じ催しで併用するのは難しいのではないのでしょうか。個人的には、市民に対し広く公募し、若い世代の人など、多くの方にジオパークに関わってもらえたらいいと思います。

ジオパークの活動は、市民の皆さんが積極的に参加したくなるようなものであってほしいと思っています。ジオパーク遠足、夏休み中のジオサタデーやジオクラブでは、子どもたちが意欲的に取り組む姿が見られました。これからの白山市、石川県を背負う子どもたちにとって必要な取り組みだと思います。親子でおでかけジオパークや大人のジオ遠足など、小中学生から大人も含めて、ジオパークを楽しめる企画を行政と協力して行っていきたいと思っています。

昨年の世界認定後、他の世界ジオパークを回りましたが、どこも素晴らしく、学ぶところがたくさんあると思いました。これらの経験をしっかりと反映させ、ワクワク楽しく学べる場であってほしいと思います。

(市長)

ジオパークは、文化遺産とは異なり、モノや自然だけでなく、人々の営みも重要な要素です。例えば、大人であれば酒、子どもには地域特有のお菓子や食べ物、先ほどの横江の古代米も、ジオパークにおける人の営みと繋がります。そういった面も学んでいかなければなりません。

公認観光ガイドは、子どもたちに対する専門的な知識を学んでいるわけではないので、難しいと思います。しかし、学習支援員の活動、スケジュールが厳しい現状では、観光ガイドにできることがあれば積極的に手伝ってもらう形でサポートを進めていけたらと思います。

◆ジオパーク遠足の全校実施など、インプットを継続、強化してほしい

(出席者⑦)

ジオパーク認定からまだ期間が浅く、まだまだ認知されていない部分があるので、発表などアウトプットも大切ですが、小中学校でのジオパーク遠足を全校実施するなど、インプットしやすい環境を作ってほしいです。それまで存在は知っていたくらいだったものの認識を深めたり、良さを再認識できるようにしたり、インプットの部分を継続、強化してほしいと思います。

◆バーチャルでは得られない体験を 松任街中での説明には看板等が必要

(出席者⑧)

最近の子どもたちは、ゲームなどバーチャルなものの比重が重くなっているので、自然体験を行うジオパーク遠足などを良い取り組みだと思っています。私は最近、学習支援員として松任地区を回っていますが、ジオパークに関する看板などが少ないと感じます。船着き場跡などの説明をしても、看板もなく、当時の名残もありません。火よけの松も、切株が残るのみ。松任の街ができたのは街道ができたからであり、それはこの地域のジオの歴史と繋がっていきます。そうした説明が書いてある看板などがあればいいなと感じています。

◆目に見えないものを視覚的に分かりやすく 市民に実感を持ってもらうためにできること

(出席者⑨)

横江荘の事業の立ち上げに際し、地域の人たちに地元の歴史を知ってもらいたいという思いから活動を始めました。どういった経緯でこういうことがあったかを語り、それがどういう人の営みかを学べるよう、遺跡などをPRしてきました。松任の宿場町なども、当時の様子の写真やイラストなどの看板があれば、地元の人の実感にもつながるのではないのでしょうか。博物館などではなく、歴史を知るための看板を普段の生活圏に設置することが効果的だと思います。松任には多くのジオポイントが存在していますが、七ヶ用水や扇状地など規模が大きく、視覚的にわかりやすいものが少ないため、市民が分かるような、他の地域の人に尋ねられた時に伝えられるような看板があればいいと思います。これによって、次につながっていくのだと思います。

◆ジオパークを通じて現地での経験を積み、故郷を大事にする心を育みたい

(出席者⑩)

普段の子どもたちは、屋内や施設内の運動場で活動しているので、市内の範囲であれば海側も山側も、そこまで差はないと思います。最近では、勝手に海で遊ばない、山は危ないと教えないといけな時代で、地元においても経験ができません。だからこそ、授業を通じて地域のことを教える必要性が高まっています。学校で海に行っても、先生方は、生徒を波打ち際に連れて行くのを躊躇してしまう。波打ち際の音を聞いたり、水に触れてみたりという経験が大事なのに、それをさせないのはもったいない。やはり現地での経験を積ませることは大事だと思います。

ジオパークになったことで、美川の子が白峰に、山手の子が海辺まで水の旅が続くことに関心を持ちます。松任地域の子どもたちも、ジオによって他の地域に行くきっかけになっています。子どもたちが白山市全体に目を向けるきっかけができた今、大人たちが工夫し、故郷を大事にする心を育てていければと考えています。

◆各団体の持続可能な運営に向け、互いの活動や課題を話し合う場を

(出席者①)

子どもが色々な活動することは大人から見るとジオパークを中心に活性化しているように見えますが、その活動を支援する運営団体が持続可能な組織になっていないことが課題です。子どもに向けたイベントを増やすこと自体は悪くありませんが、運営組織の将来を見据えて、充実させていかなければ、ジオパークの将来的な発展にはつながらないと思います。4年ごとの審査を考慮すると、これも行政の大きな課題となります。

また、各団体が互いの活動を把握していない現状があることから、年に一度は集まり、今後の課題を話し合う機会が必要ではないかと思います。また、それを周知することで、市民にジオパークのPRもできればいいと思います。

拠点施設の設置は市独自では難しいと思われるので、他のジオパークのように県立や国立の施設を検討し、県や国に働きかけてもらいたいと思います。

(市長)

各団体の交流が不足している点については、今後の検討が必要です。

また、白山市の広い市域においては、山と雪、川と峡谷、海と扇状地のエリアそれぞれの施設、また、それらをまとめた拠点としての施設の必要性を、今回の会議で一層強く感じました。

皆さんのお話から、子どもたちの感性豊かな成長を願い、活動してくださっていることを感じ、改めて有難く思います。

白山ろくには、金沢大学や金沢工業大学、学生団体「しらみね大学村」、その他全国の多くの大学生が関わってくれていて、子どもと近い年代の彼らの協力を得ることが大切であると感じています。

さらに、松任地区についても、そこにあるけれど見えていない魅力が多く存在しているため、それらを掘り起こしていなければならぬと考えています。